

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
電波伝搬委員会（第41回）議事概要（案）

1 日 時： 令和7年1月29日（水） 10:00～12:00

2 場 所： Web開催

3 議 題：

- (1) 電波伝搬委員会第40回会合の議事概要について
- (2) ITU-R SG3及びSG3関連会合（令和6年5～6月）の報告について
- (3) ITU-R SG3関連会合（令和7年2月）への日本寄与文書案について
- (4) ITU-R SG3関連会合（令和7年2月）への日本対処方針案について
- (5) その他

4 配付資料：

- 資料 電-41-1 電波伝搬委員会（第40回）議事概要（案）
- 資料 電-41-2-1 ITU-R SG3及びSG3関連会合（令和6年5～6月）報告書（案）
- 資料 電-41-2-2 ITU-R SG3及びSG3関連会合（令和6年5～6月）の議論の報告（案）
- 資料 電-41-3 ITU-R SG3関連会合（令和7年2月）への日本寄与文書（案）
- 資料 電-41-4 【取扱注意】ITU-R SG3関連会合への日本対処方針（案）
- 参考資料1 ITU-R SG3関連会合開催案内
- 参考資料2 ITU-R SG3関連会合に向けた体制について
- 参考資料3 電波伝搬委員会構成員名簿（令和7年1月29日現在）

5 出席者（敬称略、順不同）：

[専門委員]

松永 真由美（主査）、吉敷 由起子（主査代理）、足立 朋子、新 博行、
今村 浩一郎、大矢 浩代、川西 直毅、川本 雄一、前川 泰之、
西岡 未知、山田 渉、廣瀬 幸

[関係者]

林 合祐（ソフトバンク）、高橋 昌也（同左）、佐藤 彰弘（同左）、
白川 正之（構造計画研究所）、沢田 浩和（情報通信研究機構）、黒田 淳（警
察庁）、小笠原 達也（同左）、梶原 秀行（海上保安庁）、片山 麻衣子（ワシ
ントンコア）、青野 海豊（総務省）

[事務局]

深松 佑次（総務省 基幹通信室）、御領 敏郎（同左）、根本 研司（同左）

6 議事概要：

(1) 電波伝搬委員会第40回会合の議事概要について

資料 電-41-1について、意見等がある場合は、1月29日（水）までに事務局に連絡することとされた。

(2) ITU-R SG3及びSG3関連会合（令和6年5～6月）の報告について

令和6年5月29日（水）から同年6月7日まで米国デンバー、および同年6月17日（月）にITU本部（スイス連邦ジュネーブ）において開催されたITU-R SG3及びSG3関連会合の結果について、資料 電-41-2-1及び電-41-2-2に基づき構造計画研究所 白川氏より報告がなされた。以下の質疑応答の後に承認された。

松永 主査 所掌する勧告が83件とあるのに対して、採択されたものが7件であり、少ないように思われるが理由を伺いたい。

白川 氏 採択されていないものについては、次回会合に向けて継続審議がなされているものである。

松永 主査 継続審議がされているものについては、どのような点でなされているのか整理をして頂ければと思う。

白川 氏 詳細内容については報告書にも記載されている。指摘を踏まえ、今後の参考にしたい。

新 構成員 説明資料について、1ページ目の日本からの寄与文書の提案が、2ページ目の審議結果にどのように対応しているかが分かりづらいので、寄与文書に番号を振るなどして対応を分かりやすくするのはどうか。

白川 氏 今後の参考にしたい。

松永 主査 議論を円滑に進めるため、参加されている方が把握しやすい資料作成を心がけてほしい。

また、現地会合の雰囲気、動向、傾向等について、WP3Jは構造計画研究所 白川氏、WP3Kは、日本電信電話 山田氏、WP3Mはソフトバンク 佐藤氏より共有がなされた。

(3) ITU-R SG3関連会合（令和7年2月）への日本寄与文書について

1. 電-41-3-1 (3K-1)

資料 電-41-3-1に基づき情報通信研究機構 沢田氏より説明がなされた後、以下の発言及び質疑応答が行われ、修正の上で入力することが承認された。

山田 構成員 これはサイトジェネラル、ルーラル環境において新規モデルを作成する際に、考慮すべき伝搬データをP. 1411に対して提供する寄与文書なのか。

沢田 氏 然り。

山田 構成員 ルーラル環境で地上から1m、1.5m、2mといった高さで送受信をしているが、ティピカルな環境といえるのか。

沢田 氏 ルーラル環境では建物の上に設置することは考えられるが、今回は距離を測るために地上から測定した。

山田 構成員 ティピカルな環境かどうかという点について過去に議論があったので、準備をした方が良い。

前川 構成員 表 1 では全方向アンテナとなっているが、図 1 のブロック図ではホーンアンテナとなっている。

沢田 氏 図 1 ではホーンアンテナになっているが、無指向性のダイポールアンテナである。修正する。

前川 構成員 無指向性であればさらに誤差が発生する可能性があると思うが、少ないように思える。

沢田 氏 受信電力の大半は主波であり、それ以外の遅延波と合計すると、受信電力が2dBから3dB程度増加し、損失が減る。

新 構成員 ルーラル環境における測定データということだが、テラヘルツ帯の短距離での伝搬が、ルーラルか都市部かサブアーバン地域かによって結果が変わるのか。単にアウトドアの結果であるというのか。

沢田 氏 P. 1411ではアウトドアのうちでも建物高によってカテゴリー分けされている。その中でルーラル環境が最も適切であると判断した。タイトルの修正を含めて検討する。

2. 電-41-3-3 (3K-3)

資料 電-41-3-3に基づき日本電信電話 山田氏より説明がなされた後、以下の発言及び質疑応答が行われ、修正の上で入力することが承認された。

新 構成員 Section2.1の下から3行目について、送信アンテナ高が55mとなっているが、おそらく6mの誤記であると思われる。

山田 構成員 修正する。

3. 電-41-3-4 (3K/J-4)

資料 電-41-3-4に基づきソフトバンク 佐藤氏より説明がなされた。以下の発言が行われ、修正の上で入力することが承認された。

新 構成員 1. Introductionの最後の行について、the proposalと記載されているが、これは日本の寄与文書のことを指していると思うが、日本が日本の寄与文書をサポートするという表現は違和感がある。削除してもよいと思う。

 また、表 4 の下部分についてスペルミスがある。

佐藤 氏 然り。修正する。

4. 電-41-3-5 (3K-5, 3M-5)

資料 電-41-3-4に基づきソフトバンク 佐藤氏より説明がなされた。以

下の発言が行われ、修正の上で入力することが承認された。

新 構成員 既存のモデルを維持する必要性や重要性が詳しく書かれていないように思えるが、本提案を行う上では必要ないのか。

佐藤 氏 既存のモデルをどうしても使いたいというのがあるわけではない。新しい建物高を使えるモデルは、建物情報がないと計算できないので、それが難しいと考えており、建物高を考慮しない既存モデルを使用したい人もいる。

本寄与文書をもとに議論が進めばよい。

新 構成員 日本として既存モデルを積極的な維持する必要はないと理解した。

新 構成員 1. Introductionの最初の行で、In the WP meetingの表現が二つあるので修正を頂きたい。

佐藤 氏 修正する。

5. 電-41-3-6 (3J-6, 3K-6, 3M-6)

資料 電-41-3-6に基づきソフトバンク 佐藤氏より説明がなされた。以下

下の発言が行われ、修正の上で入力することが承認された。

吉敷 主査代理 最後のページについては、単位は括弧付けになると思う。

佐藤 氏 修正する。

6. 電-41-3-7 (3J-7, 3K-7, 3M-7)

資料 電-41-3-7に基づきソフトバンク 佐藤氏より説明がなされた。以下

下の発言が行われ、修正の上で入力することが承認された。

前川 構成員 図3について山で回折しているということだが、点線部分は計算されたのか、それとも平均値か。

佐藤 氏 山岳回折のモデルがあり、それを用いて計算した値である。文章中に説明が無いのは不適切であると思うので、修正する。

山田 構成員 スクエアブラケットが多用されているので、修正した方がよい。

佐藤 氏 修正する。

7. 電-41-3-2 (3K-2)

資料 電-41-3-2に基づき新潟大学 金氏に代わり、事務局より説明がなされた後、以下の発言及び質疑応答が行われ、修正の上で入力することが承認された。

新 構成員 3.2節の遅延広がりの評価について、LoSとNLoSの両方が言及されているが、図6と表4ではLoSの結果しか示されていない。分析がされていないのであれば、NLoSという表現は削除すべ

き。

松永 主査 修正をしていただくようにしたい。

松永 主査 この寄与文書について、データが取れた事を伝える文書になると思うが、何か意見はあるか。

吉敷 主査代理 議論を進めるためのものか、この文章の位置づけを明確にして追記した方が良いと思う。

事務局 修正内容を伝える。

山田 構成員 提案を明らかにしたほうがよいと本人に伝えるという理解でよいか。

松永 主査 何を狙っての寄与文書なのかを明確にしたうえで、本文やタイトルを修正したほうが良い。

山田 構成員 現状では提案がなく、情報提供が目的であるとみなされれば、議論が行われない懸念がある。何か提案するものがあるのであれば、明確に記載をすべき。

事務局 内容について、情報提供なのか提案するものか確認するという理解でよいか。

松永 主査 然り。

(4) ITU-R SG3関連会合（令和7年2月）への日本対処方針について

事務局より、SG3関連会合において、日本代表団は資料 電-41-4 の内容に従って対処を行うことを提案したところ、修正意見はなく本対処方針が承認された。

(5) その他

事務局より、SG3関連会合に向けた今後のスケジュール予定を報告した。また、松永主査より今後の電波伝搬委員会の運営方針について提案があった。

松永 主査 コロナの問題もあり、それ以降事務局の総務省がSG3関連会合に参加できない状況が続いていたが、今回は総務省からも会合に参加される。今後も現地参加を続けていきたい。

松永 主査 現状の電波伝搬委員会は、前回会合の報告と寄与文書の説明が統合されている。より議論を深めるために、前回会合報告がまとまった段階で次回審議に向けた議論をするのがよいと考えている。

吉敷 主査代理 次々回SG3会合は5月なので、2月の会合から期間が短い。それを考慮に入れると次回は会合報告と審議を同時にした方がよいと考える。

松永 主査 確かに次々回SG3会合は5月に予定されており、今までと同様に前回報告と寄与文書の審議を同時にやることで良いと思うが、次の会合までの期間に余裕がある場合は、会合後の報告と

次の会合の寄与文書審議を別々に行うのも良いと考えている。

以上